

「不適切な発言」と議事録から削除

市長は副市長に再び、磯谷 均氏を任命する議案を提出し、賛成多数で可決しました。日本共産党は以下の反対討論をおこないました。ところが「動議」がかかり、網掛けの部分は「不適切な発言」であると議事録から削除されることとなります。

1つは、各務原市の人口規模で2人もの副市長を擁していることについて、市民の理解はありません。副市長の報酬は年間1900万円を、退職金は4年間の任期満了ごとに1000万円と破格の待遇です。一般の給与所得者が40年間勤めてやっと手にできるかどうかの報酬が税金から支払われています。副市長の二人体制は税金の無駄遣いで、反対です。

2つは磯谷氏の副市長再任についてです。森前市長の在任中から、前市長時代には都市戦略部長の管理職として財務や人事のトップに位置し、市政の中核で決定的な力を有する立場でした。都市建設部時代から市の土地取得に関わって来た人です。

市所有の土地をめぐって市民が訴訟を起こした天狗谷の土地**不正**取得に関する裁判では、**不要な土地**を議会に諮らない手法で購入したことを裁判所が認められたにも関わらず、多額の税金を投入した経緯を隠

蔽しその**責任を回避**しました。**違法な**土地購入の1億円という多額の税金が議会の承認を得ないまま使われたのです。副市長として市長に**不正を是正する**よう助言すべき立場にありながら、その**職責を果たさず**、市職員として全体の奉仕者である公務員理念からも、**責任をとる**べきでした。

3つは、浅野市政の新体制になっても副市長の椅子に座り、引き続き管理職トップとして職員人事にも権限をもち、君臨してきました。昨年、はじめに職務を遂行し退職に1年を残す職員に対し、磯谷氏は自宅の「接道緑化補助金」の申請手続きに便宜を図らなかったとして怒り、当該職員に対し減給の勤務評定をCに落とす、浅野市政にいらぬなど、パワハラ発言で追い込み、精神的にも追い詰められたと職員は辞職しました。副市長からは謝罪すら無く、**内部不正をせよ**とこんなことがまかり通る職場で、職員ははじめに働く意欲は持ってません。その後、補助金規則が事後申請も認める内容にすり替わっており啞然としました。職員の人格をも手中にして**地位や権限を背景に威圧し追い詰める**、磯谷 均氏の副市長の再任は容認できません。市民のためにも、市職員が人間らしく働く環境のためにも、この人事に反対します。

いなかの城山 22回の調停も、解決のメドはない

平成14年12月、城山（じょうやま）を1億円で土地開発公社が先行取得いたしました。同時に、山際にある土地について他人の建物が建ったまま寄附を受けました。

平成25年6月議会には、浅野市長就任早々調停の申し立てを行うという議案が出されました。その趣旨は、1つは、寄付を受

けた山際の土地に建物が建っているの、それを撤去し、土地の明け渡しを求める。2つは寄付を受けた土地に隣接する土地の建物移転と土地の売却を求める。3つは、付随する法廷紛争も調停で解決するというものです。

市は、敷地内の建物等の補償費を把握するため、調査費として650万円使いました。平成25年11月に調停申し立てをして以降、22回の調停がおこなわれました。3年余経ちましたが、いまだ、解決に至っていません。

ハタノこうめは議員は、調停の経過や見通しの説明を求めました。

市は、引き続き調停の場で話し合うというだけで、解決の見通

しについての答弁はありませんでした。

また、当時1億円で土地開発公社が先行取得しましたが、金利がかさんで今や1億3000万円にもなっています。

城山を購入する時点から、周辺土地所有者が境界をめぐっての裁判中であるとか、山へ入るための道がとれないとか問題だらけの土地をなぜ購入したのか、他人の建物が建ったまま寄附を受けるなど絶対やってはいけないことをなぜやったのか。そもそもこんないわくつきの山を買ったことが大問題で、お荷物です。この土地の必要性を求めました。

市は、歴史的にも景観的に非常に価値がある。この遺産を未来に継承していくと答えました。この土地が、これからどれだけのお金をかけなければならぬのか、見通しもつかないままです。行くことは問題ではないでしょうか。



ツインブリッジ西にある城山

